

したい。

また午睡実施結果についての保母、家庭での反省と評価からその問題点を明らかにすると、

- (1) 騒音でねむれない、部屋の広さが子どもに比して足りない、室温・湿度・通風の調節などの不備といった外的環境的条件、(2)どうしてもねむらない、家へ帰りたい、よいばかりで寝つきが悪くなつたという内的主体的面の問題とが考えられ、これの究明が必要になつてくる。

ここに昼寝の時間と期間とは子どもの夜の睡眠時間の実態から算出し、しかも地域的季節的な配慮が必要である。また外的環境的条件の不備は理想的には昼寝の出来る特別室を諸条件に合うように設立することであり、長野県保育専門学院保育実習室では不備ではあるが午睡のための特別室を持っており目下鋭意研究を進めている。

ここで内的主体性の問題について動的体質学的立場からこれを明らかにしようと試みた。その結果は、S-E型、M型、W-M型の体质類型より午睡状態を、①入眠 ②深さ ③寝起きについてそれぞれ観察した結果、午睡不適応児の多くがS-E型に多いことを発見した。

このことから午睡不適応児の体質学的観点よりの個人差を十分に認め、睡眠指導に対する保母の個別保育が母体的方策として実践されることでなければならないと考えるに至つた。

小児の栄養方法と知能発達に関する一考察

日本女子大学

武藤 静子
桑原 紗翠

本研究は、乳幼児時代にとられた栄養方法が知能発達にどのように関係するかを追求する目的をもつて、男児一七九名、女児二三三名、計四一二名の幼児について、田中びね個別知能検査、身体測定、書込み法による栄養に関する調査をおこなつた。対象児は、東京都内の山手幼稚園（3か所）園児及び日本女子大学児童研究所来所の幼児で、年令は満四才より六才までである。知能分布は、最優一三、三%、優二八、四%，中の上三六、七%，中一六、五%，中の下四、一%，劣、一%，やや上位に知能分布が傾つた。劣は少數例なので考察の際、除外した。

調査結果のおもなものは次のようである。

- 対象児出生時の父の年令は二五～三五才、母の年令は二一～三一才の間に、優秀児の分布が殊に濃厚であった。
- 対象児の知能は、幼児の出生時体重よりも現在体重により多

×

×

×

1、対象児出生時の父の年令は二五～三五才、母の年令は二一～三一才の間に、優秀児の分布が殊に濃厚であった。

2、対象児の知能は、幼児の出生時体重よりも現在体重により多

くの関係があるようみえる。

3、母乳を全然与えられなかつたものは、知能の低いグループに多い。

4、長期間母乳だけで栄養されたものより、早めに乳または乳製品を足しはじめたものに優秀児が多い。

5、授乳時間をきめていたものに優秀児が多い。

6、乳児期に果汁、肝油、ビタミン剤などを与えられたものの方が知能が高い者が多かつた。

7、乳児期における体重増加不振、吐乳、断乳の困難性などは知能の低いグループに多い。

8、離乳開始の時期は、知能の低いグループではおくれていて傾向がみられた。

9、幼児期においては、牛乳その他栄養的なものが、優秀グループに多く与えられていた。

以上のことから、乳幼児期に全般的な栄養上の注意を払われていた場合に、知能発達に好影響を及ぼすことが推察される。

衣服と体质

(第一報)

長野県保育専門学院

竹村計美

幼児の着衣についてはいろいろの要因が関係した影響している

が、私は幼児の体质並びに幼児の保護者(母親)の体质が着衣に及ぼす影響について究明し、興味ある知見を得たので報告する。調査方法として、二四五名の一~六才の保育園児を本冬一月三十一日、気温、零下六〇度C、室温七〇度C、において衣服の重量を検査し、体质傾向検査表を園児について、また母親に対しても小坂動態的体質評定用紙を使用して、それぞれその体质を観察記載した。

(1) 年令別、男女別 年少者に厚着が多く、年長児に厚着薄着が多い。年長児は男子が薄着で、女子に厚着が多い傾向を認めた。

(2) 出生順位 第一子に比較的厚着が多く、一人っ子に厚着が多く、薄着は僅かである。

(3) 職業別 医師、日雇の子に厚着が認められなかつた。

(4) 体型加 瘦型の子どもに薄着が僅かで、肥型の子どもの方に薄着が多く認められた。

(5) 異常体质 異常体质傾向の多いものは、ほとんど厚着であった。(異常体质傾向のない者は薄着が多く、また厚着も多い)

(6) 母親の体质 W.M型(暑さまけ、外向性)の母親の子どもは薄着が非常に多く、S.E型(寒さまけ、神経質)の母親の子どもに厚着が非常に多く、薄着が少ない。(5)(6)の結果は興味ある新知見である。将来、母親教育、着衣の適正の問題に対し、多くの示唆を与えていると思う。

子どもの体质、殊に母親の体质が子どもの着衣に対し相当重要な影響を与えている。弱い子どもには母親の過剰意識によって厚着をさせる傾向が多い。幼児の衣服の多くは保護者(殊に母親)により着用せしめられるため母親の体质即ち個人の考え方で子どもの立場にたたないで処理しているむきが多いと云える。